

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 124 号

大学生柔道競技者における柔道実践の動機づけの因子構造とその信頼性

(Factor structure and reliability of motivation for judo practice among college judo athletes)

佐々木 康允 (ささき やすまさ)

博士 (スポーツ健康科学)

論文内容の要旨

柔道人口は減少傾向にある。その 1 つの要因として、指導者と競技者の意見の乖離が考えられる。柔道指導者は競技者の柔道実践の動機づけを把握して、指導にあたる必要がある。

柔道の動機づけについて詳細な分析を行っている研究としては、射手矢ら 6 や佐々木ら 19 の報告が挙げられる。射手矢ら 6 は、柔道継続理由の因子構造を明らかにすることを目的に調査し、得られたデータを因子分析によって検討した結果、5 因子が抽出された。しかし、射手矢ら 6 の報告は、柔道に対する意識やイメージ、興味を調査した先行研究が基になっていたり、参考にした先行研究の質問項目の信頼性や妥当性が十分に検討されたのか明記していなかったりと、実態に即した結果となっているのかが不明確であった。また、佐々木ら 19 は、大学生柔道競技者を対象に、柔道実践の動機づけについて自由記述で回答を求めた。その結果、103 項目が得られ、KJ 法によって 7 因子にまとめられた。この結果は、妥当性は高いものの、数量的には検討されていなかった。そこで本研究では、多様な柔道実践の動機づけの因子構造やその信頼性を検討することを目的とした。

無記名で自記式の質問紙調査を行い、柔道実践に関する動機づけ等について回答を求めた。そのデータを用いて因子分析を行い、因子構造を検討した。また、クロンバックの α 係数を算出した。結果として、40 項目からなる、信頼性の高い 5 因子が抽出された。